

ジャバつと日和

—アコーディオンで高齢者施設へ—

みなさんはじめまして。小俣と申します。今から7年前の2007年に初めてアコーディオンを買って自己流で弾き始め、2年前の2012年から高齢者施設を中心に、アコーディオン演奏活動を開始しました。高齢者施設での活動は主に近場の豊島区、新宿区、練馬区で、ひと月に3、4箇所、多い月で7箇所で開催する事もあります。

私はアコーディオンを弾くようになってから日本の古い歌謡曲、いわゆる懐メロの素晴らしさに目覚め、またアコーディオンで懐メロを演奏する事で高齢の方に非常に喜んでいただける、という事を知りました。さらに演奏を聴いていただくだけでなく、私の弾くアコーディオンの伴奏で歌っていただく、より楽しんでいただけます。

ご自身の若かりし頃を思い出すのでしょうか。「憧れのハワイ航路」の軽快なテン

ポに合わせて満面の笑みで踊り出すおじいちゃん。「長崎の鐘」を歌いながらハンカチで涙を拭くおばあちゃん。演奏が終わると「楽しかった」「また来てアコーディオンを弾いてほしい」とおっしゃっていただき、本当に喜んでいただけた事が実感できます。

音楽を演奏する事は、それだけで素晴らしい事ですが、誰かに聴いてもらって、そして喜んでもらえたら、それ以上の事は無いでしょう。アコーディオンを演奏出来る皆さんは是非私と同じように、誰かに演奏を喜んでもらえ

る喜びを体験していただきたいと思えます。(文:小俣慎一/写真:本人提供)



♪第28回 ふれあいコンサート「ビバアコ」交流記♪

“関東アコ”の有志3人は、今回初めての企画“前夜祭”(6月14日・土)から参加しました。前夜祭の会場はビバアコ主催者の1人である杉村先生が演奏をされている店で、当日の成功を祝して乾杯しました。初めてお会いする方もいる中で音楽話に花が咲き交流も深まり、“来年も前夜祭から集合!”と大いに盛り上がりました。

ビバアコ当日(6月15日・日)は昨年まで司会をされていた岡田さんが不在だったり、いつも独奏の部で演奏を楽しませてくれた方々の参加がなくちょっと寂しい気もしましたが、アンサンブルの部では宮崎や広島の方々などビバアコならではの幅広い参加者の演奏を聞くことができたり、大阪を感じさせる「弾き倒れアコ道楽」と称し大阪人ならではのパフォーマンスを見せてもらいました。来年は皆さんも演奏者として参加しませんか! (中川ゆり子)



「エルニーニョ楽団」の演奏の様子(右は二胡)

「アコーディオン体験会」開く

まだ冬の寒さが残る3月8日(土)、仙台市青年文化センター練習室にて「アコーディオン体験会」を開催しました。昨年のコンサートでのアンケートに、“弾いてみたい！”という声が予想以上にあったこと、また、仙台でもアコーディオンに触れる機会をつくっていかなくては…という思いがきっかけでした。継続して教室を開くには覚悟がいるけど、単発の体験会だったらできる！そんな我がサークルの事情もありました。

当日の参加者は9名(アコ持参2名)うち経験者がお一人で、8名は教えてもらうのは初めてという方々です。

《体験内容》

- ① アコーディオンの話
- ② アコーディオンを持ってみよう
- ③ ベローイングの練習
- ④ 右手(鍵盤)で弾いてみよう
- ⑤ 左手(コード)で弾いてみよう
- ⑥ 両手で弾いてみよう



写真はニュースより転写

2時間弱の体験会はあっという間でした。熱心な参加者の皆さんや応援の方々に支えられて終えることが出来た体験会、またの開催を考えなくてはと思っています。

《参加者の動機や感想》ニュースより一部を転記

☆子どもの頃、近所のお兄さんがアコーディオンを弾いていて憧れており、私も弾いてみたくて参加しました。今日はとても楽しかったです。(女性)

☆音楽が好きでギターを弾いています。今日は初めてアコーディオンを弾いてみて楽しかったです。(男性)

☆シャンソンやタンゴが好きです。アコーディオンは難しかったです。(男性)

☆今日はお誘いを受けて参加しました。C・G・F のコードを弾けるようになり満足です。(女性)

みなさん興味がある企画だと思うので紹介させていただきました。また、当日までにどのような準備をされたのか、代表者の五十嵐澄枝さんに電話で伺ってみました。

アンケートの中に弾いてみたいという声が多くあったので、知り合いに声を掛けたり地元新聞に「お知らせ」を載せました。反響は良かったのですが、体験して頂くのに必要なアコーディオンを、自分たちが使う楽器の他にそろえることが出来たのが9台だったので、2名の方にはお断りすることになりました。

当日9名の方が参加しましたが、仲間が増えるということにすぐにはつながらないと思うので地道な取り組みが必要だと実感しました。また、自分たちも車がないと練習にいけないので、日頃の練習会場と参加者の自宅との交通事情だとか私たちの地域の条件もあると思います。とおっしゃっていました。

♪「第20回ハーバード大学クロコディオスコンサート」in かわさき ぶらり訪問記♪

主催：(公財)川崎市国際交流協会 後援：「音楽のまち・かわさき」推進協議会

日時 2014年6月21日(土) 14:00 開演

場所 川崎市国際交流センター ホール

入場料 コンサートのみ(一般)

前売:2,050円 当日:2,570円

(学生)前売:1,020円 当日:1,540円

※終了後メンバーとの交流もある(料金は別)

このコンサートがあることを知ったのは当日でした。昨年初めて聴く機会があり楽しかったので実行委員会ニュースに一度感想を載せましたが、会場が自宅から徒歩20分ぐらいのところなので今年も聴きに行ってみました。

改めてプログラムから紹介文を転記すると、「クロコディオス」は、アメリカ・ボストンにあるハーバード大学が1946年に設立した男性アカペラコーラスグループです。

彼らは、学業の傍ら夏休みを利用して世界各地で公演する音楽の親善大使として広く知られています。アメリカ黄金時代のジャズ・ロック等を中心に、振り付けやユーモアを取り入れた独特のスタイルを貫いてきました。カーネギーホールやシドニー・オペラハウスなど世界のヒノキ舞台も踏み、彼らの音楽性を絶賛した故レナード・バーンスタインは、クロコディオスのためにオリジナル作品を書き上げました。と紹介されています。

司会者の紹介では、毎年10か国を回り、この後中国、台湾、オーストラリアなどへ行かれるようです。川崎でのコンサートは20回目です。学業の傍らということで、1年から4年までの大学生活の中で活動されているので、メンバーが毎年少しずつ入れ替わるため、飛び切り上手というわけではないけれどもパフォーマンスは見ごたえがあります。今回は12名でした。

私たちがアコーディオンを練習していて良く

指摘される中に、「もっと歌うように」だとか、「大きなフレーズで」、あるいは「滑らかな中にも一音一音をはっきりと立てて」などのように“音を立てる”という言い方をしますよね。彼らのコンサートを聴いていると、よく指摘される“音を立てる”っていうことはこういうことなんだろうなと思わせる演奏がたびたび出てきます。そのような聴き方、見方が出来るのもアカペラコーラスの楽しみの一つかもしれません。

肝心のプログラムの《前半》は 1. House of Blue Lights 2. Shaker Song 3. On the Street Where You Live (「マイ・フェア・レディ」で有名になった『君住む街角』) 4. Mama, Look Sharp 5. Cruella De Vil (『101匹わんちゃん』からの曲) 6. Sukiyaki Song (『上を向いて歩こう』) 7. Loch Lomond 8. In the Mood 《後半》は 9. Happy Together 10. What's Your Name? 11. L-O-V-E (愛しているよ、私の恋人になって下さい) 12. How High/Fly Me To The Moon (私を月へ連れて行って) 13. Fever (あなたは私を熱く狂わせる) 14. Everytime We Say Goodbye 15. Funk Medley (アメリカのファンク音楽とポピュラー音楽を合わせたクロコディオスのオリジナルメドレー) このステージ一杯に繰り広げるパフォーマンスは見事でした。

アンコールに、テイク・ファイブが歌われたので私は満足して会場を後にしました。



プログラムの表紙

入場の際シールを1枚渡されて帰りに“1番お気に入り曲”に貼って帰るのは昨年と同じでした。

(乙津:記)

♪ウインドバスカース埼玉アコーディオングループ 第10回定期演奏会「風」ぶらり訪問記♪

後援：NPO法人 JAA日本アコーディオン協会

写真：主催者より提供

日時 2014年6月28日(土) 14:00 開演
場所 さいたま市文化センター 小ホール
入場料 999円

会場は南浦和駅西口より徒歩15分ほどの所にあり、300席を超えるホールが満席でした。

オープニングは、「歌っているとちょっぴり悲しいけれど勇気が湧いてくる」と司会の言葉にあった「上を向いて歩こう」アコ(11人)+ドラムスでした。会場からの手拍子も加わり和やかな幕開けとなりました。

3部構成のプログラムから幾つか紹介します。

《第1部》1曲目は、美空ひばりの曲「川の流れるように」、これはデュエットで松永勇次先生がVアコでベースを担当しました。

独奏「トロイカによるバリエーション」(ロシア民謡)は、遠くから聞こえてくるソリの鈴から始まる前奏がとても印象に残る演奏です。

また、独奏で「ダークアイ変奏曲」(ロシア民謡)は、目を閉じて聴いていたら、キラキラ光る樹氷のような世界が見えてきました。第1部の最後は五重奏です。曲は「百万本のバラ」で、全員譜面立にバラを一輪飾っての演奏でした。

—10 分間休憩—

《第2部》はゲスト(長唄三味線：矢田 茜)の演奏です。「越後獅子」(本人コメント：長唄は弾き手と歌い手と別な人が演じるのが普通ですが、今日は弾き語りで演奏します)三味線も唄もよく通る声で聴きやすかった。2曲目はアコーディオン(母親)とのコラボ。演奏曲は、サウンドオブミュージックから「私のお気に入り」、アコーディオンから見た可能性ということは、他の楽器から見た可能性でもあるわけです。親子という恵まれた環境ですからこれからも挑戦されると思うので楽しみが増えましたね。

《特別企画》ダイアトニックアコ&テックスメックス メドレー(司会：テックスメックスとは、テキサスとメキシコをつなげた言葉)ダイアトニックアコ(1人)、Vアコ(松永勇次先生)、ギター(1人)の3人によるアンサンブルで「Viva Seguin & Atotoni Ico」(演奏者コメント：地元の人がお酒を飲みながら聴くような楽しい曲だと思います)、演奏の前にちょ

っとダイアトニックアコの説明。同じ鍵盤を押しても蛇腹を開いた時と閉じたときで出る音が違う。

使われた楽器は黄色でとてもかわいい楽器です。小さい分蛇腹の開閉が忙しそうに見えましたが、それが見た目に躍動感として映るのでこのような曲にはとても合っているようでした。

—10 分間休憩—

《第3部》は独奏ではじまり、曲は「サラバンド二重調」(司会：チェンバロの楽譜をそのままアコーディオンで弾きます)ベースソロが印象に残っています。次は四重奏(一人はバスアコ)で、アプデラザール組曲より「序曲とロンド」この曲はプログラムに解説が載っていました。

次は、アコーディオン9重奏+ドラムス&指揮兼Vアコ(松永勇次)で「アイリッシュ組曲」を演奏。【司会：アイルランド独特のメロディーで、1曲目は「プレリュード」、2曲目は「リール」、3曲目は「エア」(ダニーボーイ又はロンドンデリーエアとして親しまれている)、4曲目は「ジューグ」/2曲目と4曲目は踊りのスタイルの曲】演奏の前に司会のコメントを聞いているせいか、2番と4番ではシンバルの上にタンバリンを乗せ演奏も弾んでにぎやかになります。

最後はアコーディオン(14人)の他に、ピアノ、ドラムス、ベース(ギター)が加わってアコーディオンオーケストラ「レ・ミゼラブルセレクション」(松永勇次編曲・指揮)「囚人の歌」/「宿屋の主人の歌」/「オン・マイ・オウン」/「民衆の歌」、ポリウムと厚みのあるアコーディオンオーケストラは埼玉の皆さんの得意とするところで、メリハリのある編曲と指揮をなされる松永勇次先生の下で長年続けてこられた成果だと感じます。会場からは大きな拍手と“ブラボー”の声。

アンコール曲は出演者全員(写真)でシャンソンの名曲「さくらんぼの実る頃」を演奏。(司会者が歌で参加)三味線ソロの前奏が新鮮でした。(乙津：記)



♪55AC ミニ発表会「第1回 じゃばら浪漫」 in 深川東京モダン館♪ぶらり訪問記

日 時 2014年6月29日(日) 14:15 開演
場 所 深川東京モダン館 多目的スペース
入場料 無料 (1階喫茶室利用券付)

.....
関東アコ実行委員の仲間が所属している「55 (ゴーゴー)アコーディオンサークル」がミニ発表会を開くと聞いて出かけてみました。来年創立25周年を迎えるとのことでした。

節目の“コンサート”に向けて、人前で演奏経験を積もうと、講師なし、サークルメンバーだけの“ミニ発表会”を初めて試みたのだそうです。

《会場についてちょっと説明》

文化庁の登録有形文化財に登録されている2階建てのしゃれた建物でした。

「旧東京市深川食堂」は低所得者のために安く栄養のある食事を提供する施設のことです。東京市が社会事業施策として設置した16か所の食堂の一つで、この深川食堂は、関東大震災の復興事業の一環として昭和6年に着工、翌7年3月に竣工しました。(中略)昭和54年に江東区へ移管され、「江東区内職補導所」と改称、数度の名称変更を経て平成18年まで利用されました。

構造は大震災の教訓を活かし、当時の最先端技術である鉄筋コンクリートが採用され、明るく開放的な吹き抜け空間と、スチール・サッシュ窓といった近代建造物としての希少価値が認められ平成20年に国登録文化財に登録されました。(建物脇に設置されている説明文より抜粋)

発表会の方は、「男はつらいよ」の全員合奏で始まりました。この曲はサークルのテーマソングだそうです。2曲目も合奏で「浜辺の歌」歌詞カード配られていて会場とうたいながらの演奏でした。3番目から独奏になります。「天使の飛行」天使の気まぐれか途中プロペラが止まりそうになったけどちゃんと最後までとべました。次は「ヴィオレッタに捧げし歌」、そして「人生のメリーゴーランド」の演奏者は、以前「アコと人

生」にも登場した視覚障がいのある方でそんな彼の誠実な音づくりは私達も参考になります。

次は、今の演奏者にハーモニカが加わりデュエットです。「遊園地のワルツ」を演奏。

ここで15分間のコーヒータイム。15分って長いんじゃないのと思っていたら、1階が資料展示室兼喫茶室になっていて、そこでコーヒーなど飲んでみてくださいとの企画でした。受付で頂いた喫茶室利用券を使います。

第2部の初めの方は独奏で「影を慕いて」と「希望のささやき」の2曲演奏。演奏の前に、曲への想いを一言話されてからの演奏でした。2曲目の「希望のささやき」は演奏者のアレンジで、お客さんにきれいな歌詞カードを配るなど、良く弾き込んでいる演奏でした。

独奏の最後「Sans Toi Mamie」はペローストップの利いたさわやかな演奏でした。続く3曲「ダニーボーイ」、「アメージング・グレイス」、「青い山脈」を全員合奏で演奏して終演となりました。

オープニングも含めて合奏はすべて指揮なしで皆さんよく呼吸を合わせていました。

演奏者も次第に緊張がほぐれて来たのか笑顔が見られるようになり、1階の喫茶室の利用者が音に誘われて上がって来たのでお客さんも増え、アンコールで演奏した「男はつらいよ」は皆さんのびのび演奏していました。

写真は最後の曲「青い山脈」の演奏の様子。

※主催者より・・・「じゃばら浪漫」2回目は11月30日(日)、同じ会場を予定しています。(乙津:記)

